日本動物医療センター　フリーマガジン

JAMC

Smile

FREE　MAGAZINE

NO.041
2024.10.1　発行

TOPICS

- 外に出るのはなぜ危険！？
- 猫の感染症とその予防・対策について知ろう

TOPICS

NO.041

[特集1]

外に出るのはなぜ危険！？…3

[特集2]

猫の感染症とその予防・対策について知ろう…8

◇絆プロジェクト活動報告… 14

◇Wellness Salon cocoe

・ウェルネスの診察室から…18

◇宮古島だより… 21

【特集1】
外に出るのはなぜ危険？

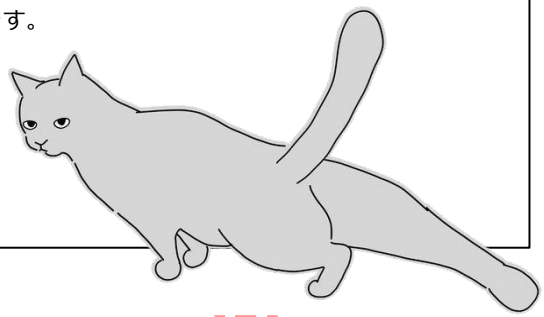
外に潜む危険

リスク１ 病原体を保有している野良猫との接触

まずは感染症のリスクです。
接触だけではうつらないものもあれば、飛沫(鼻汁やくしゃみ)を介して感染するもの、咬傷によって血液や唾液を介して感染するものなど感染経路は様々です。
「野良猫と喧嘩はしたことないから大丈夫」ではなく、数時間一緒に過ごしていただけでも飛沫を浴びて感染する可能性もあります。

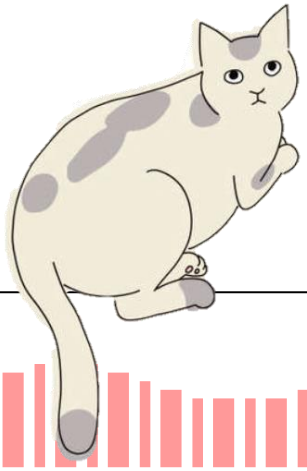
リスク２ 虐待被害

世の中には自身の趣味や憎しみから動物に意図的に危害を加える人もいます。物理的に怪我を負わせる、毒餌を撒く、捕獲して野良猫として保健所へ連れていくなど、信じがたいような行為が行われています。
事件になるのはごく一部でどの地域でもあり得ることで悪意のある人間に対して動物の立場は弱いものです。



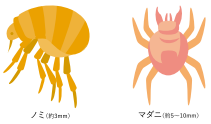
リスク３ 交通事故

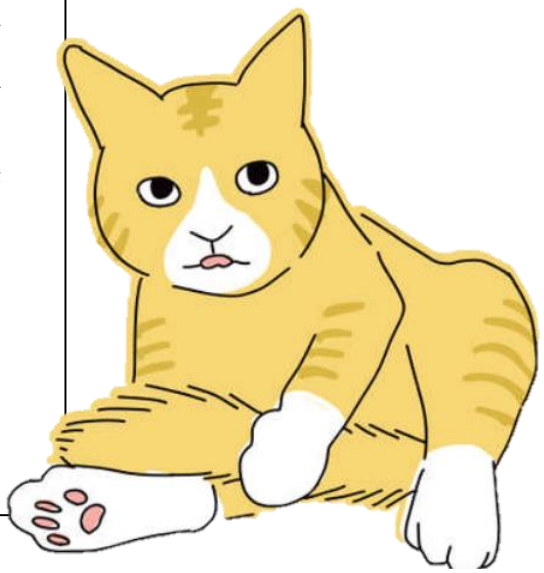
車やバイクなどとの接触により命を落としてしまうケースが少なくありません。
事故後に運が良く発見してもらえて病院に運ばれた場合は治療を受けられますが、猫は自身の不調がある場合まずは外敵に襲われないよう身を隠してしまうことが多いため発見される確率も低く救命率は高くありません。



リスク４　ノミ・マダニ等感染症を媒介する寄生虫

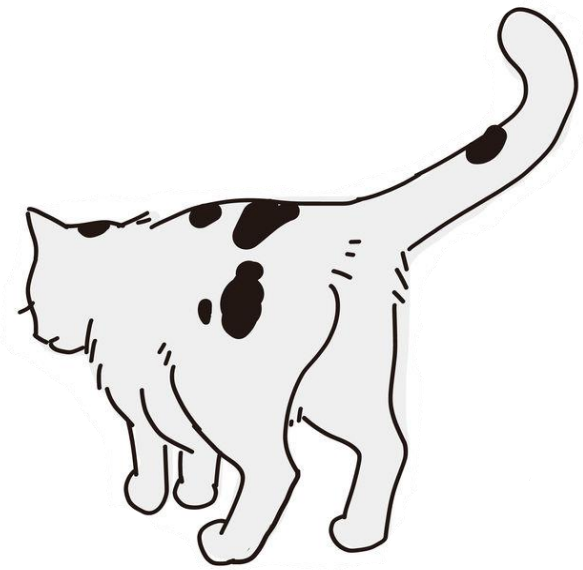
室内飼育ではほとんど寄生の心配のないノミ・マダニですが外に出る猫ちゃんでは寄生のリスクが跳ね上がります。ノミ・マダニが媒介する感染症の中には致死率の高いものもあるため感染に気付かず治療が遅れると命を落としてしまうこともあります。
また、感染症だけでなくノミ・マダニ寄生によって起こるアレルギー性皮膚炎や吸血による重度貧血なども問題とされています。





リスク５　逃走（脱走）

普段から家と外を行き来している場合はしばらく帰ってこなくてもそのうち帰ってくると思われて捜索されないパターンもよく耳にします。実際にそれで帰ってくるならまだ安心ですが、外でトラブルに巻き込まれたりして帰るに帰れない状況である可能性も考慮しなくてはいけません。
例）縄張りトラブルでそこから移動できず戻れなくなった、野良猫と間違われて捕獲されている、怪我をしていて動けなくなっている等。
猫自身は帰りたいと思っていても帰れない状況に陥る可能性があります。



もしもの時に備えて

完全室内飼育だとしても家族の帰宅時や窓を開けた瞬間など
猫ちゃんが逃げてしまう事はあるかもしれません。
外には危険がいっぱいですが、万が一脱走してしまった時でも
少しでもリスクが減らせるように普段から対策をしておくのも良いですね。

●ワクチン接種

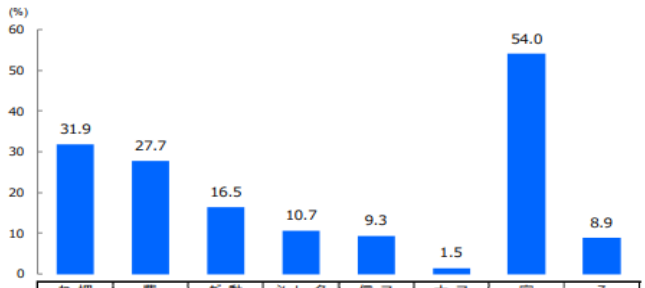
猫でワクチンを接種しない理由として「室内飼育だから」が上位に挙げられます。ただ、前項でも記載した通り脱走した際に感染源との接触があったり、ご家族様自身がウイルスなどを持ち帰ってしまう可能性もあります。外に出ない＝感染症の心配がない状態ではありませんので予防としてワクチン接種は推奨されます。

●マイクロチップの装着

令和4年にショップやブリーダーのもとで販売される犬猫には装着が義務付けられました。ですがそれ以前にお家に迎えられた子や知人から譲り受けたりご自宅で生まれた子などは未装着なことが多いです。マイクロチップの存在は知っていてもあえて避けている方もいらっしゃいますが、室内飼育でも脱走のリスクがありせっかく保護されてもマイクロチップが入っていないとご家族と再会できない可能性があります。装着することで高確率で再会することができ、災害時には行方が分からなくなっていた子が家族の元に戻ってこられたケースもあります。

【マイクロチップ非装着の理由】

Q25「マイクロチップ」非装着理由(MA)【ベース：マイクロチップ非装着者】[Q25]



	n=	埋込みが痛そうでかわいそうだから	費用が高そうだから	動物の健康に悪そうだから	名札や鑑札をしっかりつければ必要ないから	マイクロチップの信頼性が低いから	マイクロチップが大きいから	室内飼育だから	その他
TOTAL	1103	31.9	27.7	16.5	10.7	9.3	1.5	54.0	8.9
20代	71	38.0	36.6	16.9	8.5	9.9	1.4	50.7	1.4
30代	135	43.7	40.0	24.4	9.6	12.6	1.5	43.0	8.1
40代	190	37.4	23.7	20.5	6.8	10.0	3.7	47.4	7.4
50代	245	29.8	28.2	17.6	11.4	10.2	1.6	51.0	10.6
60代	244	30.7	25.0	14.3	11.9	6.1	0.8	59.8	11.9
70代	218	21.6	23.4	9.2	13.3	9.2	0.0	64.7	7.8

※一般社団法人ペットフード協会「**令和4年　全国犬猫飼育実態調査**」より抜粋

今回の記事では外へ出すことのデメリットをお伝えしましたが、猫ちゃんは活発で好奇心旺盛な子が多いためお外で自由にのびのびさせてあげたい気持ちもよくわかります。ただ、命に関わるリスクが大きいためやはり推奨は出来ません。

猫ちゃんたちは地面を走り回るよりも高さを好む傾向にあるのでキャットタワーやステップなどを用意してあげる、お気に入りのお昼寝場所に寝心地の良いベッドを置いてあげる、お気に入りのおもちゃで遊ぶなど家の中でも満足に過ごせるように環境を整えてあげることがヒトも猫ちゃんも幸せに暮らせる方法かもしれませんね。

麻布十番犬猫クリニック info

ご挨拶

麻布十番犬猫クリニック院長の島田です。当院は港区麻布十番で開業してから今年で15年目を迎えます。

当院では、ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、ペットのご相談をしやすい環境を整えております。予防接種や一般外来はもちろん、往診や専門的な診療まで対応いたします。また、もしもの時は日本動物医療センターと連携を取りながら愛犬・愛猫の命を守ります。

日本動物医療センターの患者様であれば、電子カルテの共有によって当院をスムーズにご利用できますので、ぜひ一度ご来院ください。お待ちしております。

- 通常診療（予約制）：10:00～14:00，16:00～19:00
- 定休日：毎週水曜日午後，年末年始
- 住所：東京都港区麻布十番2-8-5-401
- 電話：03-3457-8612
- アクセス

«電車»

東京メトロ南北線「麻布十番」駅　4番出口より徒歩4分

東京メトロ大江戸線「麻布十番」駅　7番出口より徒歩2分

«お車»

専用駐車場はございませんので、

近隣のパーキングをご利用ください

日本動物医療センター JAMC Japan Animal Medical Center 麻布十番犬猫クリニック AZABU-JUBAN DOG&CAT CLINIC

〒106-0045 東京都港区麻布十番2-8-5-401

https://azabu.jamc.co.jp/　TEL: 03-3457-8612

【特集2】

猫の感染症とその予防・対策について知ろう

1 ワクチンで防げる猫の感染症

【猫汎白血球減少症】

パルボウイルスの一種である猫汎白血球減少症ウイルス（FPLV）への感染が原因となります。3～5か月齢の子猫で問題となり、24時間以内～7日間のうちに亡くなってしまうケースが多いです。

● 症状として、初期には発熱、腹痛、元気消失、食欲不振を起こし、その後嘔吐と下痢を発症、最終的に体温が低下し死に至ります。

● 感染源は、感染猫の排泄物ですが、体外での抵抗力が強く、室温で何か月もの間感染性を保持し、通常の消毒薬では死滅しません。したがって1度発生したエリアでは発生が繰り返されることが多いです。

FPLV感染猫で見られた出血性下痢

【猫カリシウイルス感染症】

カリシウイルスの一種である猫カリシウイルス（FCV）への感染が原因となります。一般的に「猫風邪」と呼ばれる猫の上部気道感染症に含まれるものの一つです。

● 症状として、軽度の呼吸器病、口腔内潰瘍、鼻水・目ヤニ、微熱、跛行などがあります。急性の呼吸器症状を示した後、一部の猫は慢性の呼吸器病がしばらく続きます。そして回復する場合もある一方、10-40%は30日以上、場合によっては終生にわたって続くこともあります。

● 感染源は、感染猫の唾液や鼻水などです。換気が不十分な環境では空気で、また、ウイルスで汚染された人の手や食器などでもうつるため、猫の世話をする際は注意が必要です。

FCV感染猫で見られた口腔内潰瘍

【猫ウイルス性鼻気管炎】

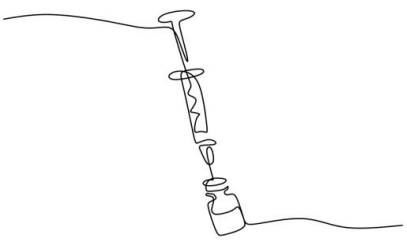
ヘルペスウイルスの一種である猫アルファヘルペスウイルス1（FHV）への感染が原因となります。こちらも一般的に「猫風邪」と呼ばれる猫の上部気道感染症に含まれるものの一つです。

● 症状として、食欲不振、発熱、鼻水、目ヤニ、よだれ、咳、結膜炎、潰瘍性角膜炎などがあります。通常2-3週間で症状は改善しますが、一部の猫はその後も慢性的に鼻水が出たり、目の病気を繰り返したりします。そしてほぼすべての猫は、生涯体内にウイルスを持ち続けることになります。

● 感染源は、感染猫の唾液や鼻水などで、猫カリシウイルス感染症と同様の注意が必要です。

FHV感染猫でよく見られる顔の様子

この3つの感染症は、国内で市販されている**3種混合ワクチンの接種で予防が可能**です
（ウイルスが強毒な場合など完全にウイルス感染から守れるわけではありません）
筋肉や皮下に注射して接種します。
ワクチンの接種時期・頻度については、生活スタイルや年齢によって異なります。
この後の項にてご説明しております。



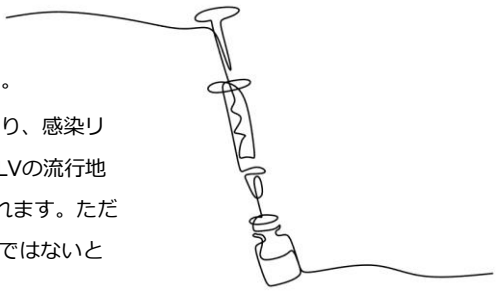
2 外飼い、多頭飼育の際とくにアブナイ感染症

【猫白血病ウイルス感染症】

レトロウイルスの一種である猫白血病ウイルス（FeLV）が原因となり、免疫機能の低下（以下、免疫抑制）、貧血、リンパ腫を引き起こします。

●免疫抑制の状態になると、ほかの感染症にかかりやすくなったり、慢性的な口内炎や鼻炎を起こしやすくなったりします。
リンパ腫は、体の様々な場所に発生し、その場所により異なる症状を示します。発生頻度の高い前縦隔型リンパ腫では、呼吸が苦しくなります。

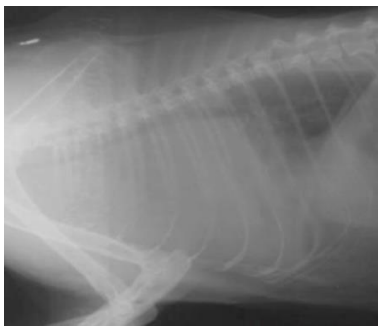
●感染源は、感染猫の唾液、鼻水、糞便、乳汁であるため、感染した猫・母猫との接触で感染します。感染を拡大させないためには、感染猫はほかの猫から隔離し、人の手や食器などからうつさないよう注意が必要です。



●若い猫は感染しやすいと言われています。

FeLVの感染予防においてはワクチンがあり、感染リスクが高い猫（室内外の行き来が可能、FeLVの流行地域にいる）は小さい頃からの接種が推奨されます。ただFeLVワクチンによる感染予防効果は100%ではないと言われています。

FeLV感染猫で見られた貧血



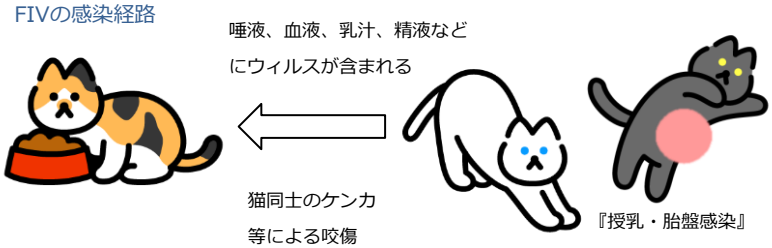
前縦隔型リンパ腫になった猫の胸部レントゲン画像

【猫免疫不全ウイルス感染症】

レトロウイルスの1種である猫免疫不全ウイルス（FIV）への感染が原因となります。ヒト免疫不全ウイルスと似ていますが、人には感染しません。

●症状として、慢性的な口内炎・歯肉炎・鼻炎、リンパ節の腫れ、体重減少などがありますが、感染しても数年間症状のない場合や、症状の出ない猫もいます。

FIVの感染経路



●主な感染の仕方は、感染猫とのケンカで咬み傷をつけられることです。FeLVとは異なり、若くなくても感染し、屋外に出る猫やケンカしやすい雄猫は感染率が高いと言われています。そのほか、稀ですが母猫から乳汁や胎盤を介して感染することがあります。

●感染猫は、ほかの感染症にかかりやすくなっており、ほかの健康な猫にFIVをうつさないという意味でも、隔離での飼育が推奨されます。

FIV感染猫で見られた口の炎症

FeLV、FIVの診断法の1つとして病院内での抗原・抗体検査キットがあり、簡便に利用できるのでよく使用されています。ただ検査結果の解釈には、以下の注意点があります。

●ウイルスに暴露されたばかりのときは抗体がつくられていないため、1-2か月後に再度検査をする必要がある。

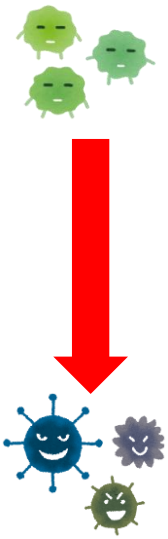
●赤ちゃんのときはお母さんからの抗体が体内にまだ残っている可能性があるため、6か月齢以上で移行抗体が消えたタイミングで再度検査を行う。

●ワクチンを接種された猫も抗体を持つため、陽性となる。

3 外飼い、多頭飼育の際とくにアブナイ感染症

人の新型コロナウイルスとは異なる、猫どうしの間で感染が起こるコロナウイルスの1種として、猫コロナウイルス（FCoV）があります。猫コロナウイルスが引き起こす病気として、猫コロナウイルス性腸炎と猫伝染性腹膜炎があり、今回はそれらについてご説明したいと思います！

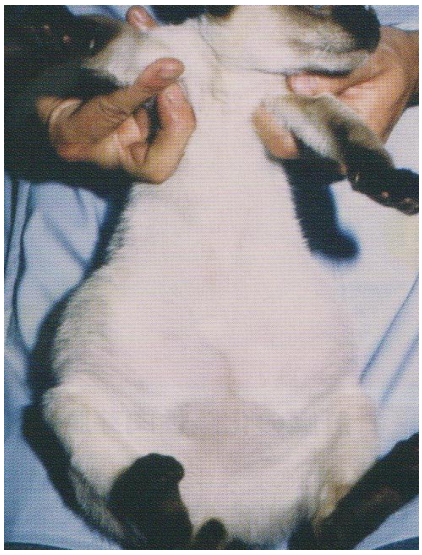
【猫コロナウイルス性腸炎】



猫コロナウイルス性腸炎は、ほとんどの場合は無症候か症状は軽度で、健康上大きく問題とならないことが多いです。短い潜伏期間の後、一部の猫で軽い下痢や嘔吐などの症状を、最長4日間ほど引き起こします。

● 感染源は、感染猫の糞便やそれに汚染された食器などです。

このウイルスに対しては一度感染しても体に残る免疫が弱く、**繰り返し感染したり、体の中でウイルスが排除されず残り続けたりする**ことがあります。そのようにFCoV感染している猫ちゃんの中で、**ウイルスが形を変え、強い毒性を持つ「猫伝染性腹膜炎（FIP）」を引き起こすものになる**ことがあります。



滲出型FIPを発症し、腹水貯留が見られた猫

【猫伝染性腹膜炎】

猫伝染性腹膜炎は、強毒猫コロナウイルスの感染が全身に広がり、脈管炎、腹膜炎、髄膜脳炎などを起こして多くが死に至る病気です。

● 猫伝染性腹膜炎を発病しやすい猫の特徴は、

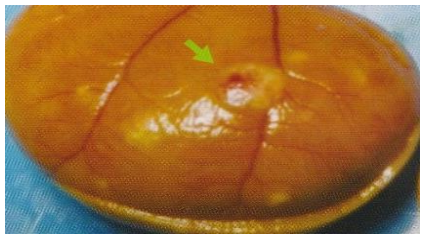
・集団飼いしている
・2歳以下

で、ストレスが発病原因の一つと言われています。

● 症状として、初期には発熱、食欲・元気の低下、体重減少などが見られ、病気が進行するにつれて特徴的な症状を示しますが、その症状は大きく2つのパターンに分かれます。

・滲出型FIP： 胸の中やお腹の中に液体が溜まったり、それにより呼吸が苦しくなったりします。経過は悪く、診断してから数日～数週間で亡くなることが多いです。

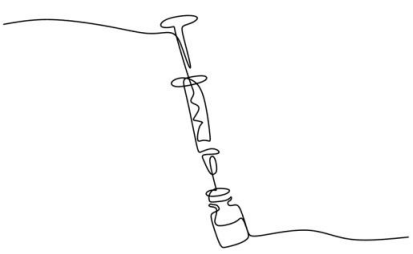
・非滲出型FIP： 体重減少や、食欲不振が認められるのみで、そのほかには特徴的な症状はありません。黄疸や神経症状が認められることはあり、病気が進行して、最終的には死に至ります。



非滲出型FIPを発症した猫の異常な腎臓

非滲出型FIPを発症した猫で見られたブドウ膜炎

国内で製造・認可されているワクチンはなく、またこれまで有効な治療薬も報告されていませんでした。
近年では、海外で製造された一部の治療薬による効果が認められており、健常に回復したという報告もあります。しかし、国内での認可はおりていない事、輸入が必要なことや、ウイルスを体内から完全に排除することが難しく継続的な治療が必要なため、治療費も高額となるという難点も多いです。



4 感染症予防の基本的な考え方

1. 感染源対策

感染源とは、病原体をもつもののことで、土や水、大気、病気を媒介する虫、
すでに感染症にかかっている動物などが当たります。
対策として、衛生的な飼育環境を保つための消毒や清掃、感染の有無の早期発見などがあります。

2. 感染経路対策

感染経路とは、感染源から動物の体に病原体が入るまでの経路であり、その対策としては経路を断つことです。
感染源をそのまま口に入れたり、吸い込んだりといった直接的な経路がある一方で、空気や食器、虫などを媒介する間接的な経路もあり、後者では媒介物の消毒と駆除が有効です。

3. 感受性宿主対策

感受性宿主とは、みなさまの愛猫ちゃんのことで、その感染症にまだ感染していないが、
感染症がうつる可能性のある動物のことです。
対策として、健康維持・増進のための衛生・飼育管理やワクチン接種などがあります。

5 外に出る猫が抱える感染症リスク

外に出る猫は感染症にかかるリスクが高く、一般的に下の図にある場面は感染機会となります。
猫は行動学的には家庭内や十分な広さのあるケージなどの中で生活することが可能であり、外飼いは特に必要のない動物とされています。
外に出ないようにすることが感染症予防につながります。
猫同士やほかの動物の糞尿との接触では、前項で記載した感染症も感染します。
蚊やダニ、ノミなどが媒介する感染症として、とくに注意すべきなのは、重症熱性血小板減少症候群（SFTs）です。SFTsは野生動物などが持っているSFTsウイルスをマダニが媒介して猫に感染し、感染した猫では死亡例が多くみられる病気です。人にもうつる感染症（人獣共通感染症といいます）で、2016年にはSFTsに感染した猫に咬まれた人が数日後に亡くなった事例が報告されています。SFTsについての詳しい内容は、Smileの過去号(vol.23)にて記載させていただいています。
野生小動物は、病原体となるウイルス、細菌、寄生虫を持っていることがあり、小動物の捕食はそれらの感染症に感染する機会を与えることになってしまいます。

外に出る猫が感染症にうつるリスクのある場面

ハトやスズメ、カエル、ヘビ、ネズミなどの捕食

蚊、マダニ、ノミなどの媒介節足動物がいる場所

猫同士、他の動物との接触（ケンカやじゃれあい）

他の動物の糞尿との接触

6 多頭飼育下で新しい猫を迎え入れるときの注意点

すでにおうちに猫がいたうえで、新しい動物を迎え入れる際には、下記のポイントを意識していただくことが非常に重要です。猫は繁殖期を除いて単独行動を好む動物とされているため、ほかの猫との共同生活はストレスのもととなることが多いです。ストレスは免疫力低下につながるため、多頭飼育をされている中で、猫のストレスを少なくできるよう気にかけていただくことは、感染症予防にもつながります。

7 新しい猫を迎え入れるときの注意点

- ☐ 猫は単独行動を好むとされているが、多頭飼育では社会的順位が存在するため（犬ほど厳格なものではない）性別、相性、飼育頭数（飼育部屋数－１を上限）、トイレの数（飼育頭数＋１以上）などを考慮してストレスを回避し闘争行為が起こらないようにする。
- ☐ 外へ出さず室内飼育とする。
- ☐ 新たに猫（特に外で生活していた猫や経歴不明の猫）を導入する場合には、動物病院で健康診断、ワクチン接種、感染症検査を実施し、 慣らし期間を含めた一定期間は先住猫から隔離して飼育する。
- ☐ 日頃よりすべての猫の健康状態をチェックし、異常のある動物を発見したら速やかに隔離する。
- ☐ 感染症が発生しているとわかったときは、症状が出ていないかすべての猫を確認し、必要に応じてケージ飼育に切り替え、食器やケージの消毒、排泄物の慎重な処理を行う。
- ☐ 日頃より糞尿の処理は確実に行う。

8 生活スタイルや年齢で異なるワクチン接種間隔

前項でご紹介した、FPLV、FCV、FHVの感染予防効果がある3種混合ワクチンの接種について、生活スタイルによって推奨される接種の頻度などが異なります。その分類は大きく二つに分けられ、感染症にかかるリスクの高い「高リスク群」、リスクの低い「低リスク群」と呼ばれています。

【高リスク群】

- 室内と屋外を行き来する
- 多頭飼育
- 定期的にペットホテルを利用する

1年に1回のワクチン接種

【低リスク群】

- 完全室内飼育
- 1頭飼い
- ペットホテルを利用しない

3年に1回のワクチン接種

【子猫に対するワクチン接種】

子猫は生後数週間にわたり「移行抗体」と呼ばれるお母さんから受け継いだ免疫をもっていますが、それ以降は子猫の体を感染症から守ってくれるものはなくなるため、ワクチンを接種してあげる必要があります。

世界的に推奨されているワクチンの接種の仕方としては、**6 ～ 8 週齢で開始し、16 週齢またはそれ以降まで 3, 4 週間毎に接種を繰り返し、生後 12 ヵ月または最後の接種後12 ヵ月に接種**することです。ここまでの接種が完了した後は、上記のリスク分類に合わせて追加接種していくことになります。

感染症は子猫のときからでも起こりうる体の大きな病気の1つで、命にかかわる場合も多くあります。

しかし感染対策について知り、徹底していただくことで、その病気を予防することができます。

ワクチンの接種方法などについては病院ごとで違うことがあるので、興味を持たれた方はかかりつけの動物病院で、愛猫ちゃんに合った詳しい説明を受けられてみてくださいね。

美しく健康で

長生きするために

絆プロジェクトとは

「動物が健康で美しく長生きするためにできること」をテーマに、ご家族様と動物が楽しく快適に過ごせるよう、動物病院の立場から、「動物と暮らすことの幸せ＝絆」を改めて感じてもらえるようなイベントを開催しているプロジェクトです。家族として迎え入れたその時から、生涯を全うするまでの、大切な時間をはつらつと笑顔に溢れる時間にして頂きたい、という願いが込められています。

従来の動物病院は病気やケガが生じて初めて足を運ぶ場所でしたが、これからは、動物が健康であり続けるための「パートナー」として機能したいという思いから、多くの方にとって動物病院に足を運ぶのが楽しいと思っていただけるような様々な企画を行っています。

check！

『WEB写真展』

定期的にテーマを決め、ご家族様からの素敵なお写真を募集しております。お送り頂いた写真はホームページに掲載させて頂いております。
また動画も配信しております。

★web写真展参加特典あり★
2021年より、web写真展に５回ご参加いただいたご家族様には、オリジナルグッズをプレゼントいたします。

check！

『イベントテーマについて』

ご家族様がどのような情報をお知りになりたいか、是非お声をお聞かせください。
皆様のご意見を基に絆イベントを運営して参ります。

アンケートはこちら▶

展示会

01 『ペット用防災グッズLINOA72』のご紹介

近い将来に大きな地震が来ると言われている今、いざという時に、
我が子を連れて同行避難をするための準備はされていますか？
LINOA72は、福島県に本社をもつ医薬品メーカー、日本全薬工業が
東日本大震災で被災した経験を基に、動物の命を守るために取り組
んでいるプロジェクトです。
震災発生後、72時間は人命救助が優先されます。
その72時間、我が子を守り抜けるのはご家族様だけです。

防災バッグのポイント

LINOA72は、震災被災経験者の声と、獣医師の
専門的な意見をもとに、最小限かつ厳選した必需
品のセットになっています。
平常時も邪魔にならず、いざという時の持ち運び
がラクラク。
まずはこちらをスターターセットとして、他に我
が子に必要なご飯や薬などをローリングストック
して、バッグに入れておけば安心です。

LINOA72の購入は
こちらのECサイトをご覧ください

とっても便利『東京備蓄ナビ』

いつか来る災害に備えよう！
「災害に備えた備蓄」
何をどのくらい備蓄すれば良いかがわかります。
備蓄のイロハや、備えておくと良い品目などを紹介
するサイトになっています。

企画

02 夏休み特別キッズ企画　『いかすの畑に遊びに行こう』

2024.7.27　神奈川県平塚市にある有機農家『いかす』の畑に行って、自然と触れ合って、新鮮な野菜を収穫して、その場で食べて、ただただおもいっきり遊ぶという企画です。

晴天に恵まれ、子どもたちが元気にはしゃぐ声に、パワーをもらえる1日となりました！

キッズ企画の様子

神奈川県平塚市で有機農業を営む『いかす』は、「はぐくむ(生産)」「たべる(宅配)」「まなぶ(学校)」「あそぶ(体験)」事業を展開しています。
未来の地球と子どもたちのためにbe organicな野菜づくりを大事にしているいかす。
生命の循環に人間が介入するのではなく、寄り添い、つむぐという手法で野菜づくりを行っています。植物も菌も虫もつながり、命がめぐる“生きた土壌”で育まれた野菜はとても美味しいです。

◀子どもたちがブルーベリー畑で、水鉄砲で遊びました。畑をビショビショになって、走り回る姿は真剣そのもの！

▼新鮮なお野菜をそのまま乾燥させた、食物繊維が豊富なわんちゃん用ふりかけを、近日ご紹介予定です！どうぞお楽しみに！

参加いただいた方の声

●とても美味しかったです！また別の野菜の時も行ってみたいです。

●乗り物好きな４歳息子は、実際にトラクターを目にして大喜び！農場の方が子供たちにもわかりやすく野菜の育て方を教えて下さいました。そして、自然の中で頂く採れたてのきゅうりやトマトの丸かじりが最高～！でもやっぱり、子供たちは水鉄砲を持って走り回った時間が一番楽しかったようです(笑)親子共に貴重な体験をありがとうございました！

●空気がよくて、久々に自然と触れ合った感じがして、リフレッシュできました。子ども達に普段食べているお野菜がどのように育てられているのかを見せられてよかったと思います。

●豊かな自然の中で作られる野菜の収穫体験ができて、子供だけでなく親も楽しみました！ トマトやきゅうりとてもおいしかったです。

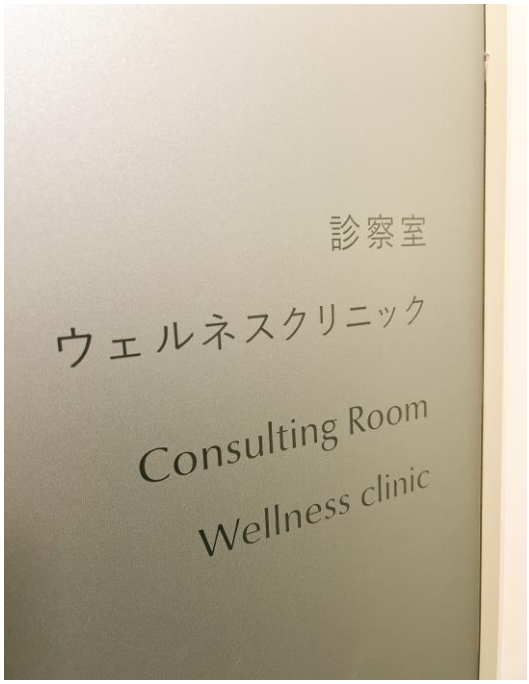
●暑さを心配しておりましたが、広々とした場所で風通しもよく、過ごしやすかったです。 ブルーベリー美味しくて、子供もたくさん食べて喜んでいました！帰宅後は教えていただいたアイスを一緒に作って美味しく食べました⭐ 自然の中で駆け回って遊ばせることができてとても嬉しかったです。

◀いかすのインスタでは、地球にやさしい有機野菜についてとても楽しく詳しく紹介しています！

連載　第6回 ウェルネスの診察室から

動物とご家族の「ウェルビーイング」とは？

ウェルネスサロンcocoe
院長　冨田　夏子



最近「ウェルビーイング」という言葉をよく耳にします。当院で提供しているパッケージプランの名前にもなっている「ウェルネス」、また「ワンヘルス」「SDGs」など似た言葉もありますがどのような概念なのでしょうか。

「ウェルネス」は心身の健康に注目した行動やライフスタイルを意味します。当院ではウェルネスプランを通じて、定期的な身体検査、血液検査や尿検査、ワクチンや寄生虫予防などの予防医療、食事やBCS（ボディコンディションスコア）、予防歯科に関するアドバイスを行っています。

一方「ウェルビーイング」はウェルネスを包括するより広義な概念です。初めてウェルビーイングという言葉が世に出たのは、1946年の世界保健機関（WHO)設立の際に考案された憲章でした。そこでは「健康とは、病気でないとか弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態であることをいう」と表現されています。「心も体も健康であること」は他人から与えられた受動的な基準ではなく、自分のウェルビーイングを決めるのは自分である、つまり「自分らしさ」の追求が必要なのかもしれません。

ウェルビーイングとは

よい　状態
well ＋ being

WHO によると、
個人や社会のよい状態という意味。
「Well-being is a positive state experienced by individuals and societies.」

ウェルビーイングの種類

主観的ウェルビーイング	客観的ウェルビーイング
一人ひとりが個人の感覚や認識で感じる	統計などの客観的な数字を基に測る
〈測定指標の例〉	〈測定指標の例〉
自分の人生への満足度	平均寿命
生活への自己評価	生涯賃金
うれしい、楽しいなどの感情	失業率
など	など

▷ウェルビーイングとは
参照元：WHOの資料「Health Promotion Glossary of Terms 2021」を基に、ベネッセホールディングス作図

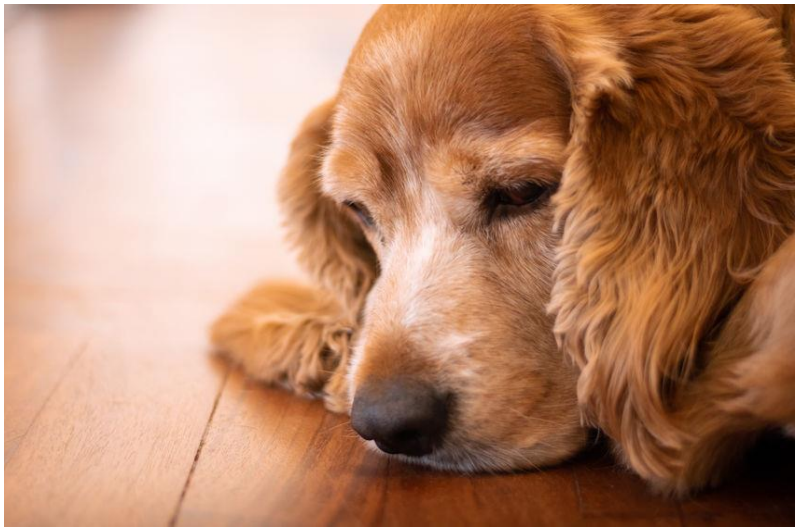
▷ウェルビーイングの種類
参考：ベネッセホールディングス作図

このウェルビーイングを測る指標として「生涯幸福量」といった概念があります。
生涯幸福量は、主観的幸福度（自身が感じる幸福度）×平均寿命で表されています。日本はGDPや平均寿命が世界トップクラスでありながら、世界幸福度ランキングにおいて51位である現実は、私たちの生活をより豊かなものにするヒントを含んでいるかもしれません。 医療に話を近づけると「治療型」から「予防型」への転換が挙げられます。ヒトの歯科診療において「虫歯を治療してもらいに行く歯医者さん」から「虫歯にならないために行く歯医者さん」という、予防歯科に関する意識の変化もウェルビーイングの一環です。

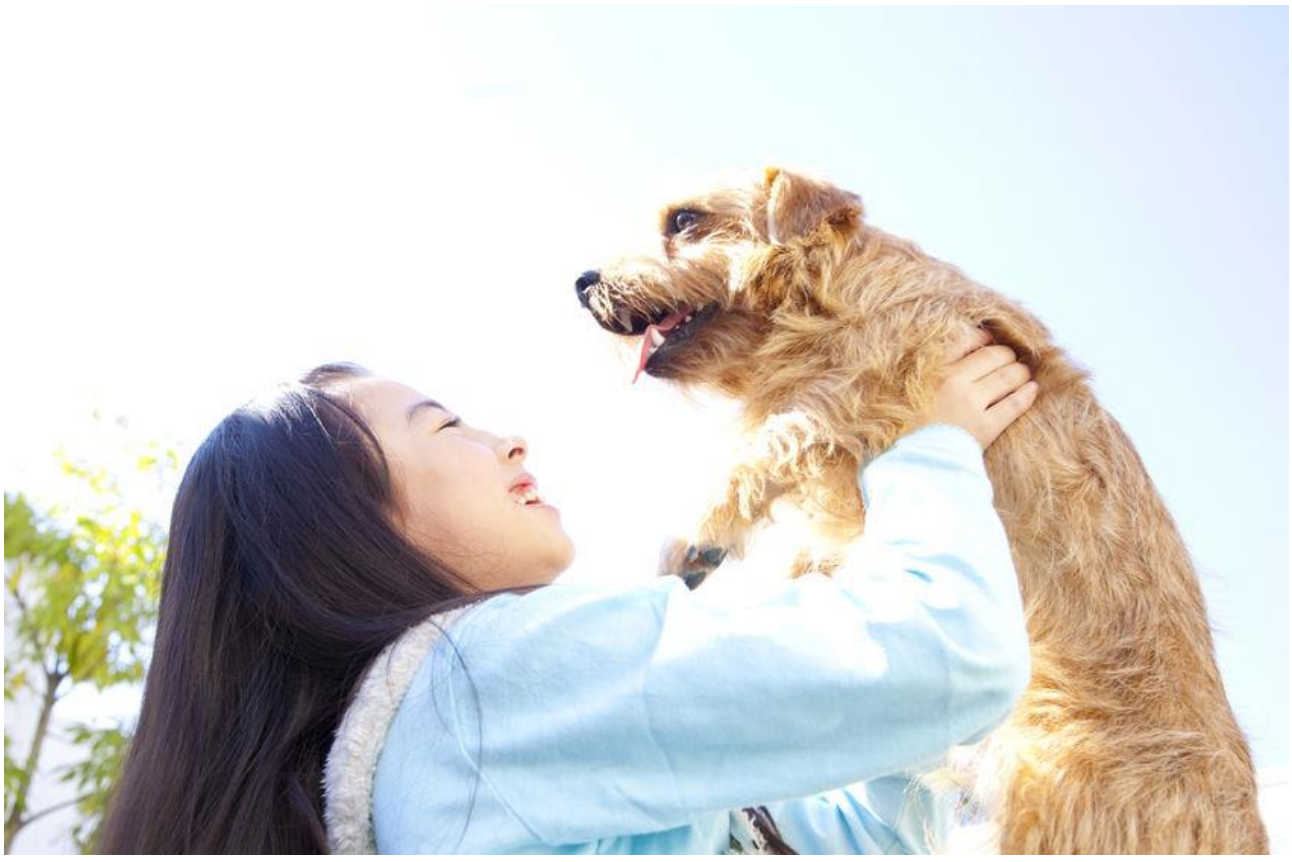
さて、ご自宅で飼われている動物に関してはどうでしょうか。今までは動物病院も歯医者さんと同様「具合が悪くなってから診断・治療に訪れる場所」でした。しかし、病気になって胸を痛めながら時間・経済的コストを費やすことと比べて、健やかで活き活きとした毎日を送るために、健康なうちに同様のコストをかける方が、動物とそのご家族様にとってポジティブな状態ではないでしょうか。つまり「痛みを取り除く」から「痛みが出ないようにする」のがウェルビーイング的アプローチであり、病院は健康を維持できていることを確認し、それを共に喜ぶ場所でありたいと考えています。

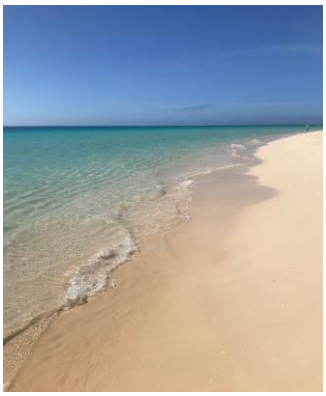
また、老化に関して興味深い報告がなされています。
基本的に人は1年に1歳年をとりますが、生活習慣などにより老化速度に差があることが示されています。つまり、1年で0.5歳しか年を取らない人がいる一方で、1年に2歳年を取る人がいるということです。その老化を早める原因としてストレスが大きく関与しています。
すなわち、老化は自然現象であり不可逆的と捉えられていましたが、老化は一種の病気であり、取り戻せる可能性があるということです。

以上より、痛みが出てからの鎮痛剤より、痛みがでないための健康管理。健康は日々の散歩の楽しみを担保し、ご家族一緒の旅行など楽しい時間を過ごすことを可能にします。また痛みなどネガティブなストレスをコントロールすることで全身の老化のスピードを遅らせることができるかもしれません。



これらを私たちウェルネスサロンがサポートすることで、病院が「動物が持つ自分らしさを発揮し、
幸福度を保つための健康を追求する場所」となることを目標としています。
それは最初にお伝えした「幸福度×寿命」がウェルビーイングの測定指標となるといった概念に繋がるのかもしれません。
是非、動物と病院の関係性をリデザインしてみませんか？
動物が健康で美しく長生きする、そして動物を囲むご家族様にも幸せの循環を提供できますようウェルネスサロンcocoeに
お気軽にお越しください。スタッフ一同お待ちしております。





宮古島だより

麻布十番犬猫クリニック　宮古島分院より

みなさん、こんにちは！
今年の夏はいかがお過ごしでしたでしょうか？
東京もとても気温が高くて暑かったと聞きましたがここ宮古島も例年通り暑い夏でした。

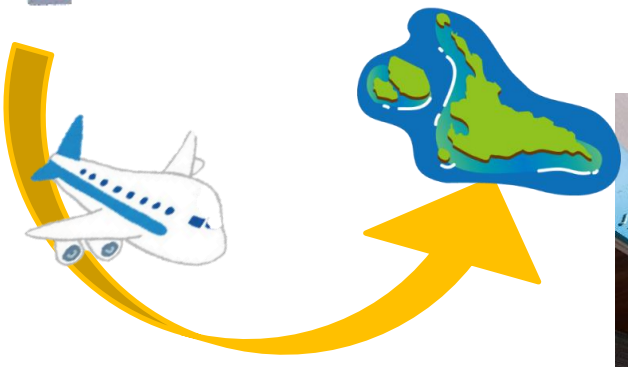
さて、今回はここ麻布十番犬猫クリニック宮古島分院に勤務する派遣獣医師についてご紹介したいしたいと思います。
是非ご覧ください♪

麻布十番犬猫クリニック　宮古島分院
住所：沖縄県宮古島市平良字西里　928-1-103
TEL：0980-79-8612
HP：miyako.jamc.co.jp
Instagram：　miyako.jamc

当院の
派遣獣医師のしくみ

当院では、提携病院である東京の日本動物医療センターから約1か月交代で獣医師が派遣され宮古島に勤務しています。東京で経験を積んだ優秀な獣医師が定期的に宮古島の医療をサポートしに来ていますので現地スタッフもとても助かっています。宮古島に住む動物やご家族様のために最善の医療を提供できるよう勤めております。
今回は、今年の6月末～8月にかけて宮古島に派遣された獣医師今井梨恵子先生のご紹介を致します！

日本動物医療センター



麻布十番犬猫クリニック宮古島分院

今井 梨恵子 先生

日本動物医療センター常勤の獣医師　今井梨恵子先生は今回、6/30～8/14までの間、麻布十番犬猫クリニック宮古島分院に派遣され獣医師として勤務しました。今井先生は今回が宮古島初来島でしたのでワクワクドキドキの派遣勤務だったそうです！

今井先生の勤務スケジュールは麻布十番犬猫クリニック宮古島分院に週に4日宮古島動物病院に週に1日の勤務でした。宮古島分院では、来院された動物達の外来診療や手術をして宮古島動物病院では保護犬や保護猫の医療、不妊手術などを行いました。
普段東京の病院では見られないような症例の診療や手術も多く経験し、そして宮古島の温かいご家族に触れ今井先生にとっても良い経験となりました。また、滞在中の休日には現地スタッフと一緒に海に行ったりご飯を食べに行ったりもして、宮古島の自然や食も満喫していました。今井先生はこの派遣期間中に宮古島でスキューバダイビングのライセンスも取得してとても充実した日々を過ごしていました♪

みんなで
マック♪

宮古まつり♪

居酒屋でいりぐちで
古川先生のバースデー♪

宮古島勤務を終えた感想…

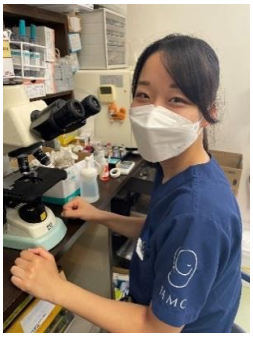
初めての宮古島勤務、人と動物がとても優しく充実した日々を過ごせました！
宮古島ではいつもの勤務と違い、手術を1日に何件も実施する日があり、最初は緊張しましたが徐々に自分の力がついていってるのを実感できました。
プライベートでは職場の方々とシュノーケリングやご飯に行かせてもらい、あっという間の1ヶ月半でした！
ダイビングのライセンスも無事取得でき楽しかった思い出でいっぱいです。また次回の派遣も楽しみに日々頑張ろうと思います！

スタッフ紹介コーナー作りました！

約1か月で交代する派遣獣医師の顔や名前に加えて常勤スタッフの顔や名前も皆様にぜひ覚えていただきたいので病院の待合スペースにスタッフ紹介コーナーを作りました！是非ご覧いただき、スタッフの事をお気軽に名前でお呼びいただけますと幸いです♪

宮古島ではこれまでも沢山の派遣獣医師が来島し宮古島の動物医療をサポートしていました。

古川院長率いる麻布十番犬猫クリニック宮古島分院は、今後も東京と宮古島ともに連携しより良い医療を皆様にご提供できるよう、力を合わせこれからも宮古島のご家族様・動物たちのためにより良い病院づくりを目指していきます！



診療時間（ご予約受付:9:00～20:00。救急は24時間365日対応）

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
09:00～13:00	●	●	×	●	●	●	●
14:00～16:00	○	○	×	○	○	○	○
16:00～20:00	●	●	×	●	●	●	●

●：通常診療、○：完全予約診療
水曜日休診（救急は対応します）
東京都渋谷区本町6-22-3

入院中のご面会

14:00～16:00 | こちらの時間以外をご希望の際はご相談ください。

救急診療

24時間365日救急対応。
獣医師、愛玩動物看護師が
24時間待機・看護します。

まずは当院へお電話ください。

03-3378-3366

急な体調の変化、怪我など、年間1500件以上の夜間診療を実施しています。深夜でも獣医師2名・ケアスタッフ2名以上が常駐し救急診療および入院看護にあたっています。緊急手術の際は、緊急手術担当の獣医師も駆けつけ増員します。
当院はJAHA（日本動物病院協会認定）認定動物病院です。

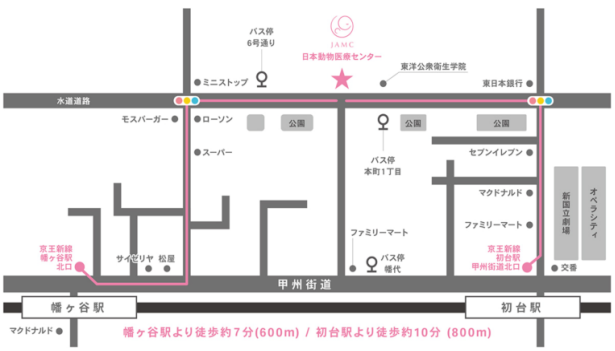
下記をお知らせください。

1、ご家族様と動物のお名前
2、症状
3、動物種（犬・猫・うさぎ・フェレット・ハムスター）、年齢、性別
4、既往歴
5、来院時間
※現在服用中の薬もご持参ください

ご注意事項

- お問い合わせが集中しているときなど電話がつながりにくい場合があります。お手数ですが、しばらくたってからおかけ直しください。
- 緊急性や重症度の高い動物の対応を優先していますので、状態に応じて順番が前後してしまうことや待ち時間が長時間になることもありますのでご了承ください。
- 緊急時にはお預かりして、救命処置を進めさせていただくことがございます。
- 夜間は保険の窓口清算ができません。各保険会社にお問い合わせください。

アクセス

東京都渋谷区本町6-22-3
都道431号線沿い（白い建物です）

当院の住所「東京都渋谷区本町6-22-3」でナビ案内するとまれに、当院の裏通りに案内されることがございます。ご注意ください。
ナビ案内で来院される場合はこちらの住所を入力ください。「渋谷区本町1-62」